

Introduction

前回の市民ワークショップで話した「まちづくり」の論点は、「まちの元気と協働」は「意識や危機感の共有」と「学習過程と経験」が基盤になるというものでした（最後の頁に前回レジュメをつけてあります）。今回は、前回とは違った視点でまちづくりにおいて重要な視点や考え方を話したいと思います。

1. 自治体の行政サービスはその住民だけのものか

①行政区域内サービスの限界

②基本業務と連携業務

基本業務・・・手続きサービス、証明サービス、受給サービス

連携業務・・・図書館サービス、施設利用サービス

③地方政治とまちづくり

市長選・市議選 → 自治体住民（投票に参加した住民、投票率の低下）

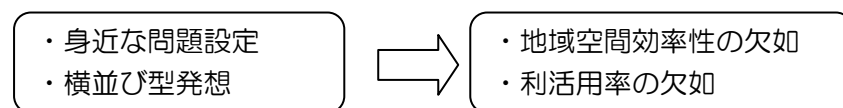
まちづくりは協力（資源）総合化する活動で、参加する主体も地域限定ではない場合も多い。

2. 2次元型課題解決と3・4次元型課題解決

① 2次元型の課題解決（類似比較型要求）

「隣の市が立派な文化ホールを建てたよ。2000人も入るホールだって」

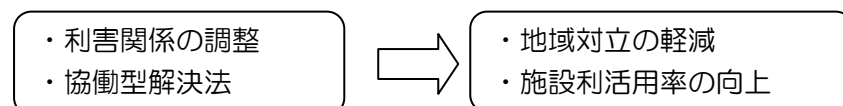
「うちでも、欲しいよね。うちの市の規模ならもっと良いホールがあるべきだよ」



② 3次元型の課題解決（調整型解決）

「他の地区に自治会館ができるんだって」

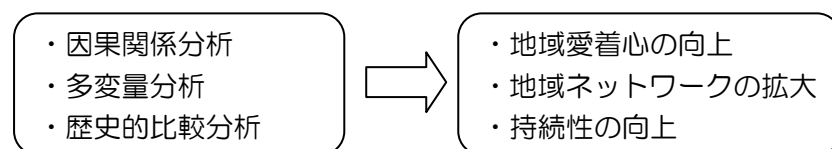
「地域にえこひいきや格差がありすぎじゃない。施設などの見直しをしようよ」



③ 4次元型の課題解決（参加型解決）

「われわれの自治体は全体的に力がなくなってきているね」

「何を、どのようにしたら活気や元気がでてくるだろう。・・・」

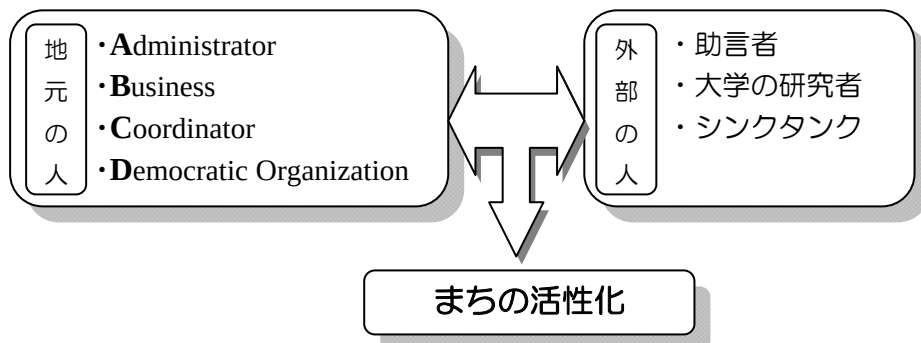


3. まちづくりにおける ABCD 理論

①まちづくりは総合的な関わり合い

②地域の資源とは何か、どう発見するのか

③まちづくりのABCDコンビネーション



日本各地のまちづくり・活性化の事例

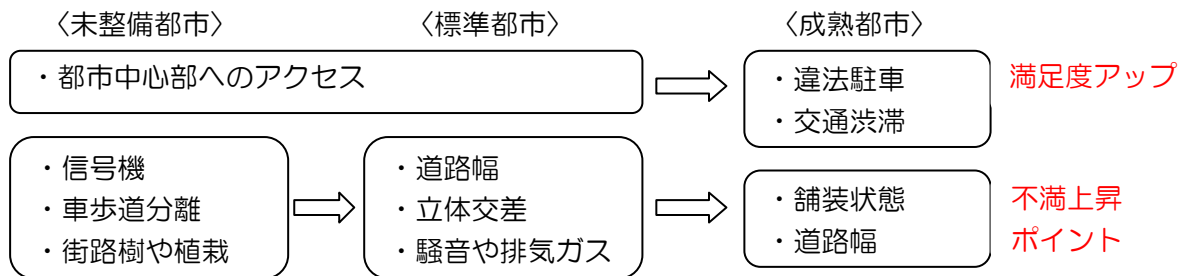
	A（行政）	B（企業）	D（地域の団体・NPO）
産業振興	・池田町（北海道）のワインづくり ・黒川町（新潟）のリゾートづくり	・湯布院町（大分）の温泉リゾートづくり	・天龍森林組合の川上彦善づくり
文化・スポーツ	・利賀村（富山）の世界演劇祭 ・高島町（滋賀）のガリバー紀行村	・渋谷のBunkamura ・赤坂サカス	・岸和田市の市民参加型文化ホール
福祉・医療	・沢内村（岩手）の老人医療	・大分の福祉工場（企業による身障者等の活用）	・兵庫県丹波市の地域医療を守る会
環境	・柳川市（福岡）の掘割浄化 ・墨田区の雨水利用	・丸の内のオフィス町内会によるゴミ回収	・JC主導による近江八幡市（滋賀）の八幡堀の保存活用
地域整備	・神戸市のポートアイランド、六甲アイランド	・サッポロビールによる恵比寿ガーデンプレイス ・サッポロファクトリー	・小布施町（長野）の町並み整備

4. まちづくりと住民満足度の乖離

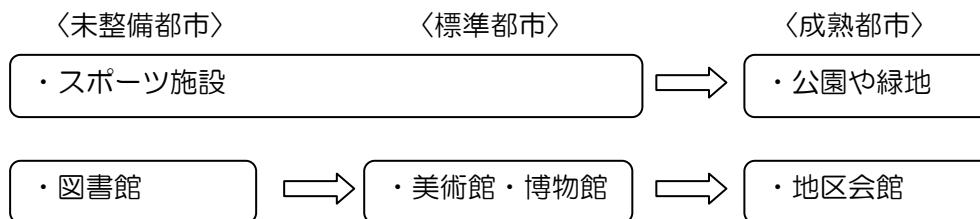
①まちづくりと都市整備事業の有効性

・都市の成熟度の違い（未整備都市・標準都市・成熟都市）で反応が違う

②幹線道路整備と満足度の違い（都市別整備のプライオリティの違い）



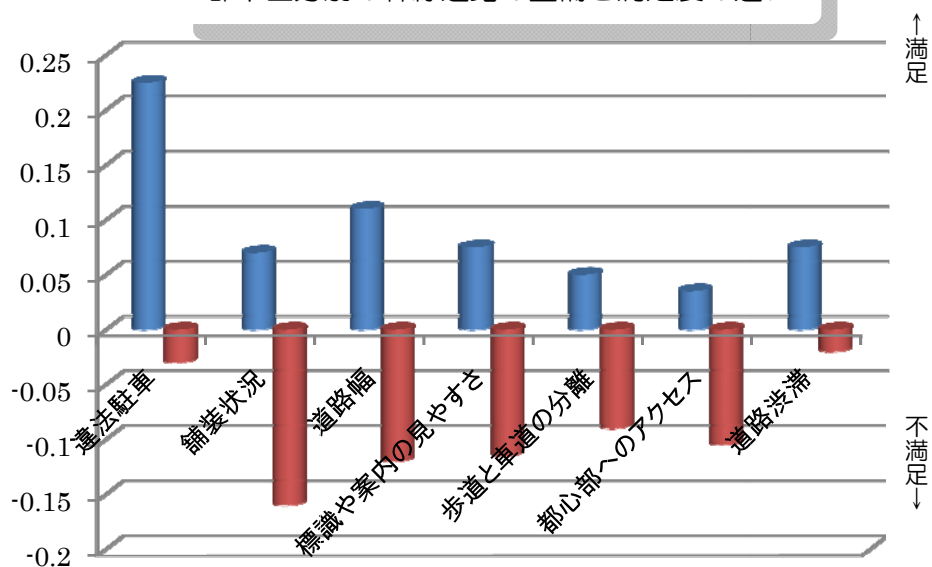
③整備分野別に違う住民の選好



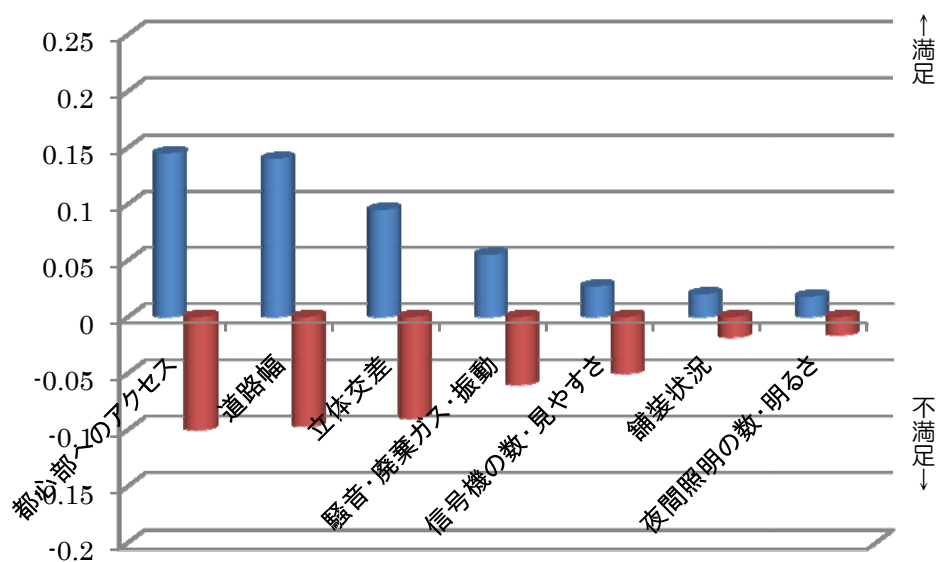
まちの整備は、分野別に重点を置く項目が全然違う。→ **都市の政策蓄積と住民反応の要調査**

都市区分別の幹線道路の整備と満足度の違い

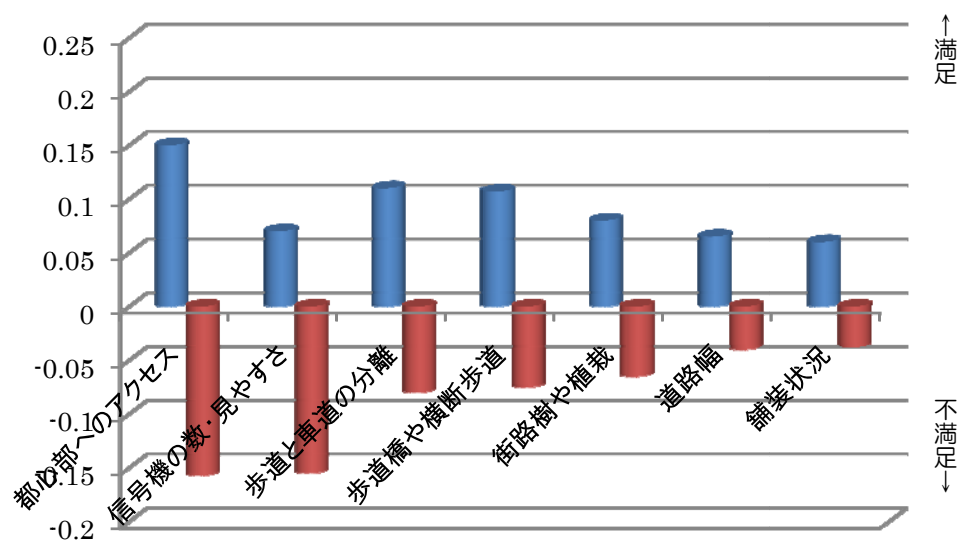
成熟都市



標準都市



未整備都市



1. どのようなところが元気なのだろうか？

1) スコットランドのエジンバラ

スコットランドは、イングランドと違い、経済的に豊かなところではない。

経済的に豊かではない都市の人々がやさしく、助け合いの精神が強い。

SCVO（スコットランド・コミュニティ・ボランティア協会）の相補的役割

2) イタリアのボローニャ

カサ・デ・ポポロ（人民の家）、みんなが元気に街のことや地域の問題などを話し合っている。

3) 日本の若手自治体職員の切実な悩み

2. 元気の共通項

1) 危機感を共有すること

2) 自分自身が楽しんでいること

3) 自分たちで問題解決しようとする自発性とその組織力

3. まちづくりや協働は学習

1) 協働や参加は、学習理論(Susskind & Elliotte, Paternalism, Conflict, and Coproduction, 1983)

パターナリズム（後見主義）→コンフリクト（対立）→コプロダクション（協働）

2) ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）

先進国、途上国を問わず、世界の国々で重視されてきているのが、人と人の絆の強さを示すソーシャル・キャピタル（社会関係資本）である。ロバート・パットナムは Making Democracy Work（1993）（『哲学する民主主義』）や Bowling alone（2000）（『孤独なボウリング』）の中で、民主主義の違いは、ソーシャル・キャピタルの蓄積の違いによると指摘。ソーシャル・キャピタルとは、「人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、“信頼”“規範”“ネットワーク”といった社会的特性」から形成される。

社会関係資本の社会的効果

- | | |
|----|-------------------------------|
| a. | ボランティア活動などが多いほど、犯罪が減少する傾向がある。 |
| b. | // 失業率も減少する傾向がある。 |
| c. | // 出生率が高まる傾向がある。 |
| d. | // 健康指数が高まる傾向がある。 |

4. 社会変化の中で協働を考える

1) もし、地域社会に協働がなかったらどうなるか

2) 協働の地域社会をつくとさまざまな課題を解決

できる基盤をつくることになる

社会起業家、コミュニティ・ビジネス

3) 相互に活かし合う関係を構築し、地域の中で元気に

活動できることが重要

マズローの5段階欲求

